

問題行動等の未然防止・早期解決等のためにスタッフを派遣します

問題行動の未然防止及び事件・事故後の初期対応、並びに児童・生徒に係るいじめ、不登校、集団不適応等の健全育成上の中・長期的な対応をするため、学校、区市町村教育委員会、教育相談機関、その他教育関係機関に対し、専門家アドバイザースタッフ及び問題行動サポートスタッフを派遣し、相談・助言等の支援を行います。

専門家アドバイザースタッフ

○問題行動の未然防止

- ・配慮を要する児童・生徒の行動観察
- ・教職員に対する助言
- ・児童・生徒、保護者等との面接
- ・校内体制への支援

○事件・事故後の初期対応(直後)

- ・情報収集(該当児童・生徒、事故状況等)
- ・遺族、警察、報道関係の対応への支援
- ・危機対応チームの編成に関する支援
- ・児童・生徒や保護者への周知の支援

○事件・事故後の初期対応(1週間以内)

- ・「心のケアのプログラム」の実施
- ・児童・生徒、教職員の心身のケア

東京都教育相談センターから
心理の専門家を派遣します

問題行動サポートスタッフ

○問題行動等の解決に向けた中・長期的な支援

- ・児童・生徒のいじめ、不登校、集団不適応などの健全育成上の課題解決に対する支援
- ・校内体制の構築に対する支援

○事件・事故後の中・長期対応

- ・配慮を要する児童・生徒の観察
- ・児童・生徒、教職員の状況把握
- ・校内体制の充実

問題行動等の解決に向けて、専門的識見や能力を有する人材を学校や区市町村教育委員会が選定し、東京都教育相談センターが委嘱して派遣します。

学生アドバイザースタッフ

不登校・登校しぶり・いじめ等の心に悩みを抱える児童・生徒に対して、東京都教育相談センターから学校等に学生を派遣し、問題の解決に向けた支援を行います。

学生アドバイザースタッフは、不登校・登校しぶり・いじめ等の問題を抱える児童・生徒に対する話し相手及び遊び相手として支援に携わります。

【申込み及び問合せ先】 電話：03-5800-8309

相談のご案内

学校や教職員からの相談を受け付けています

- 電話相談／平日 午前9時から午後9時まで
土日祝 午前9時から午後5時まで(年末年始等を除く)

※上記以外及び閉庁日は、留守番電話及び電子メールによる対応をしています。メール相談はホームページ上のフォームより利用できます。
<ホームページ> <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

- いじめ相談ホットライン／24時間対応 03(5800)8288

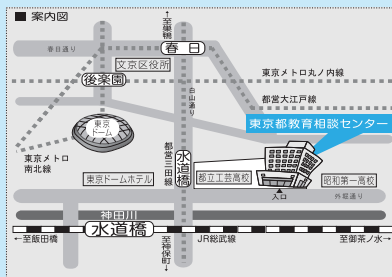
- 来所相談／平日 午前9時から午後5時まで

※電話でお申し込みください。

※立川出張相談室(立川市錦町6-3-1)においても応じています。

- 所在地／〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3

受付電話番号 03-5800-8008



東京都教育相談センターは、平成24年度末に移転する予定です。
移転先 東京都新宿区北新宿4-6-1 (東京都子供家庭総合センター)
詳細は、東京都教育相談センターのホームページでお知らせします。



すこやかさん

東京都教育相談センター
<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3
TEL 03-5800-8545(代表) FAX 03-5800-8402

第32号
平成24年10月発行



◆東京都における不登校・長期欠席の実態について

東京都教育委員会「平成23年度における児童・生徒の問題行動等の実態について」より

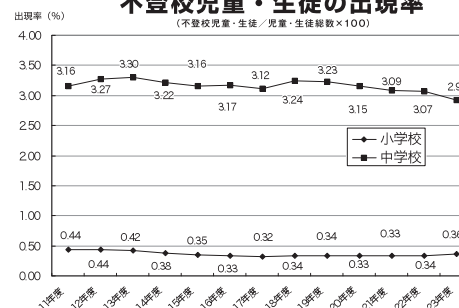
■不登校の実態

東京都教育委員会では、都内公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象として、「暴力行為」「いじめ」「不登校」「高等学校における長期欠席者」「高等学校における中途退学者」の実態を把握するために、「平成23年度における児童・生徒の問題行動等の実態について」を発表しました。

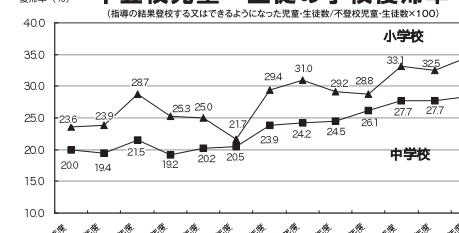
同調査の結果、小学校・中学校における不登校及び高等学校における長期欠席者の実態は次のような状況にあります。

<小学校・中学校における不登校の状況>〔〕内は出現率
不登校児童・生徒数は、小学校2,015人(0.36%)、中学校6,801人(2.93%)であり、小学校で増加、中学校で減少しています。出現率でみると、小学校は横ばい、中学校は減少傾向が続いています。また不登校児童・生徒の学校復帰率は、小学校で34.6%、中学校は28.4%と増加しています。なお、中学校における学校復帰率は、平成15年度から増加傾向にあります。

不登校児童・生徒の出現率



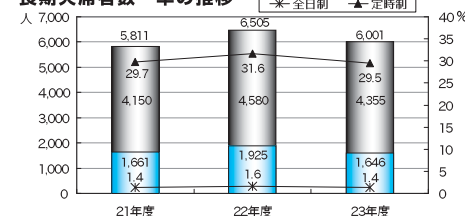
不登校児童・生徒の学校復帰率



<高等学校における長期欠席者の状況>〔〕内は出現率
長期欠席者数は、全日制1,646人(1.4%)、定時制4,355人(29.5%)であり、全日制・定時制ともに減少しています。

長期欠席の理由は、全日制・定時制ともに「不登校」が最も多くなっています。また不登校者数は、全日制・定時制とも1学年が最も多く、学年が進むにつれて少なくなっています。

長期欠席者数・率の推移



■不登校児童・生徒の状態に合わせた支援

前述のとおり、不登校児童・生徒数は、中学校で減少しているものの、依然として深刻な状況にあります。

また、不登校となった直接のきっかけのうち「本人に係る状況」においては、小学校・中学校ともに「不安など情緒的混乱」が最も多く、高等学校では、「その他本人にかかわる問題」が最も多くなっています。

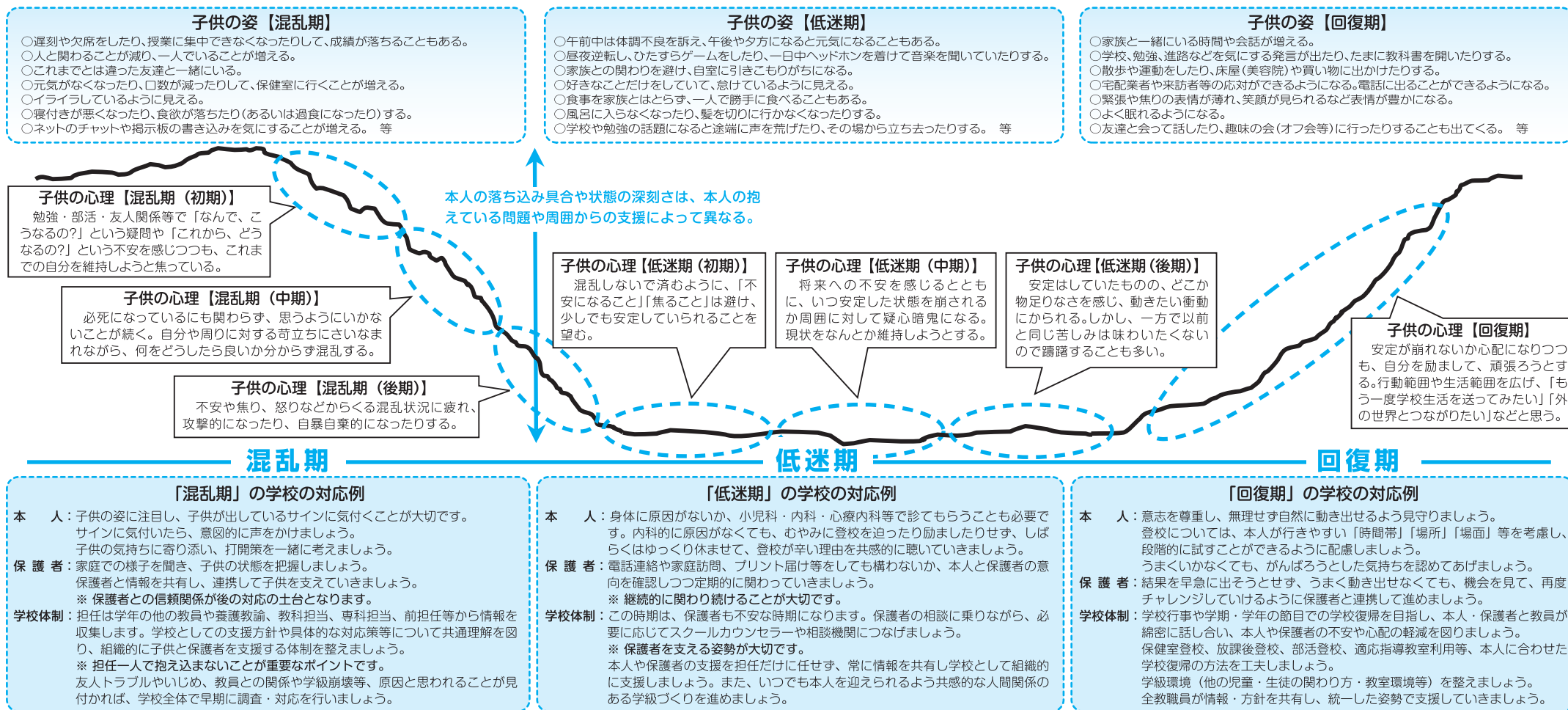
児童・生徒の中には、がんばって登校しているものの不安定な状態にある児童・生徒、様々な不安や葛藤を抱え不登校の傾向にある児童・生徒、不登校の状態が続いているものの少しずつ将来に向けて気持ちが動き始めている児童・生徒などがあり、その状態は様々です。

そうした児童・生徒を支えていくためには、その児童・生徒が置かれている現在の状態(混乱期・低迷期・回復期)を理解して、その状態に合わせた対応をすることが大切です。

そこで、今号では不登校からの回復への道のりと、その過程における児童・生徒の心理や姿、学校の対応等を示しました。それらを一つの参考に、不登校児童・生徒の支援に役立てていただければ幸いです。

◆揺れ動く不登校児童・生徒の心と回復への道のり

不登校からの回復の道のりは、その様相や期間など、一人一人違っており、決して一様ではありません。しかし、一般的にその状態は大きく三つの時期に分けることができます。以下に示す図は、東京都教育相談センターが対応した不登校の相談から、子供の心の揺れ動きを捉え、それぞれの時期における対応のポイントを整理したものです。不登校になってしまった子供が、今どのような状態にいて、どんな対応をしたら良いのかを考える一つの参考にしてみてください。



不登校が、学期単位、年単位で長引いてしまったときは...

- ・担任から本人や保護者への定期的(継続的)な声かけが大切です。「学校はあなたのことを忘れていないよ」「あなたはうちのクラスの子供だよ」というメッセージを伝え続けましょう。(担任が替わる時には丁寧に引き継ぎを行い、新担任から本人と保護者に挨拶をし、継続して声かけをしていきましょう)
- ・ネットやゲームの世界に依存してしまうと低迷期が長引き、人間関係や他の実体験ができないまま数年間引きこもってしまうこともあります。本人や保護者が孤立しないように、友達が遊びに来たり、他の家庭と家族ぐるみで交流したり、図書館やコンサートに行くなど、学校以外でもよいでの外の空気に触れる機会をもつよう、本人や保護者に促していきましょう。
- ・いじめ等によるPTSDや発達障害等が背景に疑われる場合は、スクールカウンセラーや教育相談機関の心理職などの専門家に相談することを勧め、保護者が一人で抱え込まないようにしましょう。
- ・抑うつ状態、強迫症状、摂食障害、家庭内暴力等が見られる場合には、早期に医療につなげることが大切です。保護者に勧めにくい場合には、まず学校から教育相談センターにご相談ください。
- ・虐待等が疑われる場合は、迷わず虐待通告をし、子供家庭支援センターや児童相談所と連携して、早期対応を図ることが重要です。